



TITLE:

京都帝國大學物理化學研究室昭和 二年度研究成績發表討議會

AUTHOR(S):

CITATION:

京都帝國大學物理化學研究室昭和二年度研究成績發表討議會. 物理化學の進歩 1928, 2(1): 1-3

ISSUE DATE:

1928-04-20

URL:

<http://hdl.handle.net/2433/45835>

RIGHT:

雜 報

京都帝國大學物理化學研究室昭和

二年度研究成績發表討議會

昭和三年二月十八日に京都帝國大學樂友會館で研究發表會を開きました。其の演題及び内容の大略は次の様であります。

液態アセトンの光による作用

槌 本 朝 亮

アセトンに光をあつる時は分子間の平衡に何等かの變化を生ずるにはあらざるかとの考への下に蒸氣壓の測定によつてそれを知らんと欲せり、然るに果して蒸氣壓に變化あるを認めたり。されどその原因に就ては未だ研究中に屬す。

酸化銅電極に對する Becquerel 效果に就て

速 水 永 勳

酸化銅電極の作製に電解法を適用し Becquerel 效果を窒素氣中で觀察測定し、更にその機構に及ぶ。

過酸化鉛の分解壓(豫報)

田 田 利 吉 郎

一次反應の研究(豫報)

Kundt の比熱測定法の改良

城 野 和 三 郎

一次反應に必要なエネルギーが如何なる機構によつて與へられるかを究めんと欲し、先づ Kundt の比熱測定法を改良し比熱の測定により分子の内部エネルギーを計算せんと欲す。今この比熱測定方法に就て述べんとす。

Weigert 效果の研究(第三報)

今 堂 健 雄

曩に銀—ゼラチン及び水銀—ゼラチン系に就き Weigert 效果の研究を報告せり。其後約二千種の色素—ゼラチン及び色素—コロヂ

(2)

録

報

オン系に就てこの効果を研究せり。こゝにその大要を述べんとす。

6. 化學的原因による Dalton 法則の違背(第三報)

鹽化水素—メチルアルコール系

四手井次太郎

氣態鹽化水素とメチルアルコールとを恒容積中にて混合する際
起る壓力變化(分壓定律に對する違背を見、之を主として兩氣體間
行はるゝ加添反應によりて説明したり。

7. 今堂反射回折格子製作工程

福井重男

8. 光による膠質の生成(第一)

陳之霖

硝酸銀がゼラチン—水分散系に於て光の作用によつて銀のコロ
ドを生成するに當り此の光化學反應に缺くべからざる觸媒とし
ハロゲンイオンの作用を發見し、更に其のプロモーターとして
aniline, oxalic acid 等の作用を見出した。今此等の定性的實驗
報告せんとす。

9. 光による膠質の生成(第二)

石井新次郎

1. 光による水銀膠質の生成

2. 化學反應を利用せる銅膠質の生成

3. 光による銅膠質の生成と銅寫真感光膜の製造

10. 電氣運動ポテンシャルに就て(豫報)

古谷登

電氣運動ポテンシャル特にストリーミングポテンシャルの測定
法及び二三の電解質の之れに對する影響を述べ實驗のおもむく
き方向を示す。

11. 鹽素及び水素の光化學結合(第三報)

市川禎治

吾人はさきにこの反應に關する數多の豫備實驗を遂げこれを發
せり。その後引續きこの反應の精密なる研究に従事し此處にそ
二三の結果に就いて述べんとす。(20分)

12. 還元ニツケルの存在に於ける一酸化炭素の分解

李 泰 圭

反感速度を測定し此れが一次反應なることを確かめて進んで Langmuir の觸媒理論によりて其の機作を論ぜんとす。